

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3570201057		
法人名	社会福祉法人むべの里		
事業所名	グループホーム藤山		
所在地	山口県宇部市東藤曲1-1195-2		
自己評価作成日	平成25年8月22日	評価結果市町受理日	平成26年8月21日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先 <http://kaigosip.pref.yamaguchi.lg.jp/kaigosip/Top.do>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉数下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
訪問調査日	平成25年9月3日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

個別ケアに取り組むため、サービス計画書の大幅な見直し行ってきた。入居者様と担当職員が2人でゆっくり過ごせる機会を持ち、新たなニーズを引き出す努力をしている。炊事、洗濯、掃除などの家事を日課として行うことで生き生きとされてきたように思う。また今年は裏庭の畑を苗植えから入居者様たちと一緒にに行い、収穫と食卓に上る喜びを共にすることができた。管理者が自治会役員になったことで地域住民とのつながりができ、野菜や花の差し入れをいただき交流の幅がひろがりつつある。また「グループホーム藤山通信」の発行でこれまでかかわりがなかった近隣住民への地域に開かれた施設からの情報発信を始めた。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

職員が地域の清掃作業に参加されたり、管理者が自治会の環境衛生委員として毎週プラスチックゴミの整理をされている他、事業所より「藤山通信」を近隣の50世帯に配付されたり、認知症サポーター養成講座や運営推進会議への参加の呼びかけをされるなど事業所への理解を得るための活動をしておられ、事業所と地域との付き合いを深めるように取り組まれています。事業所主催の「藤山祭り」には地域から100人余りの参加がある他、節分には利用者と職員と一緒に地域の八幡宮に参詣されたり、散歩時や買い物時にあいさつを交わされたり、野菜や花の差し入れがあるなど、地域の人と交流しておられます。手芸材料の買物に利用者と職員が一緒に出かけ作品づくりをしたり、絵画の好きな利用者にはそれぞれに役割分担をしてもらい大きな作品を創りあげられたり、同窓会に出席したいという利用者の思いが実現するように教え子の協力を得て支援したり、温泉や自宅付近のドライブ、家族の協力を得ての墓参りや外泊、外食等、利用者一人ひとりが何をしたいのか、どこへ行きたいのかを丁寧に把握され、支援に取り組んでおられます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、生き活きと働けている	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「共に暮らす、みんな平等。愛と笑顔で応援します。ここがええ、みんなと一緒にがええと言っていただける家づくり」のホーム独自の理念を共有し、実践につなげている。	事業所独自の理念を事業所内に掲示して、職員は毎朝の申し送り時に唱和している。自己評価の機会を捉えて職員で話し合い確認して共有し、利用者に尊敬や笑顔を持って接することを心がけて、理念の実践につなげている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	管理者が自治会役員となり、地域との日常的な交流がある。	管理者が自治会の環境衛生委員として毎週プラスチックゴミの整理をしたり、職員が年2回の清掃作業に参加している他、節分には利用者と職員が八幡宮を参拝して地域の人と交流している。事業所だより「藤山通信」を作成し近隣50世帯に配付したり、認知症サポーター養成講座や運営推進会議への参加の呼びかけをするなど、事業所への理解が深まるように努めている。事業所主催の藤山祭りには地域の人や子ども達100人余りの参加があり、交流している。ボランティア(朗読、歌)の来訪がある他、散歩時や買物時に挨拶を交わし、茶話会開催の話をしたり、野菜や花の差し入れや花苗の購入をするなど、近隣住民と日常的に交流している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	法人主催の講演会や運営推進会議を実施している。			
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	可能な限り改善に取り組んでいる。	管理者は評価の意義を説明し、自己評価をするための書類を職員に配布し記入してもらったが、記入が少なく、定例会議や研修会議、ケア会議で話し合いを行い、管理者がまとめている。運営推進会議の地域メンバーの拡大や内部研修は年間計画を立て実施するなど、前回の評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	・評価の意義の理解 ・全職員での自己評価への取り組み	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議ではなかなか意見があがってこない。アンケート形式で個別にたずねても同様の結果だった。	新たにボランティアや生活支援ハウス入居者をメンバーに加え、民生委員や地域からの参加者も増インして、年6回開催している。行事、近況報告、外部評価についての報告をして、意見交換している。毎回テーマを決めて研修(食中毒、食事バランス、施設見学)を実施し、避難訓練等の話し合いをしている。事業所だよりを地域に配付し、運営推進会議への参加の呼びかけを行ったり、避難訓練と同日開催するなどの工夫をしている。会議の報告内容についての提案があり、活かしている。	
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	高齢者総合支援課とは運営推進会議を通して意見交換やアドバイスをいただき、協力関係を築いている。	市担当課とは運営推進会議の他、電話や直接出向くなどして、相談し助言を得たり、情報交換をするなど、協力関係を築くように取り組んでいる。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	マニュアルがあり、身体拘束のないケアに努めている。また施設内研修でも指導を行っている。	マニュアルに基づく内部研修を実施し、職員は、身体拘束の内容や弊害について理解して、抑制や拘束をしないケアに取り組んでいる。玄関には施錠をしないで、利用者の外出を察知した場合は一緒に出かけるなどの工夫をしている。スピーチロックについては管理者がその都度指導をしている。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	手順書を作成しており、常に確認できるようにしている。排泄や入浴時に身体チェックが行える。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設内研修で学びの機会を持っている。現在のところはご家族様が責任を果たしておられる。		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、改定時には重要事項説明書を読み上げ、事前に十分な説明を行い理解、納得を図っている。		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や面会時に意見や要望をお聞きし、また玄関に苦情受付箱を設置するなど気軽に意見が引き出せるように工夫している。重要事項説明書には苦情相談窓口、担当者、外部機関が表示されホーム内には第三者委員名簿が表示されている。	苦情受付体制や第三者委員を明示し、苦情処理手続きを定めて、契約時に利用者と家族に説明している。利用者や家族からの意見や要望は利用者の担当職員が日々のケアを通して聞くように心がけ、運営推進会議出席時や面会時、電話、毎月の家族便り等で聞いている。玄関に苦情受付箱を設置している。利用者のケアや医療面、行事参加等の意見を業務日誌やケース記録に記録し、職員間で共有して、運営に反映させている。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回に事業所内会議や年2回の個人面談で職員の意見や要望を聞く機会を設けており、意見を運営に反映させるよう取り組んでいる。	管理者は、事業所内会議や年2回の個別面接で意見や提案を聞く機会を設けている他、日常の業務の中でも聞いている。運営推進会議の充実や地域の世帯に配付する事業所だよりの作成など、意見を反映させている。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人本部が徹底して行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ほぼ毎月施設内において研修を行い、職員は可能な限り参加している。また外部研修においては各種研修の情報を提供し、希望があれば勤務変更などの対応も行っている。	外部研修は情報を伝え、希望にそって勤務調整を行い参加の機会を提供している。受講後は復命、伝達を行い職員間で共有している。今年度はグループホーム協会研修に2名が参加している。毎月の法人研修(介護福祉士やケアマネージャー資格取得の対策講座)に参加し、受験しない職員も学習機会と捉えて受講している。内部研修は年間計画を立て、毎月、緊急時の対応や介護事故と水分補給、AEDの取り扱い、高齢者の身体等の研修を実施している。新人研修は法人研修の他、日々の業務の中で管理者や先輩職員を指導者として、介護技術を学べるよう支援している。	
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	山口県宅老所・グループホーム協会や宇部・山陽小野田ブロック研修会、宇部市内のグループホームの勉強会などに参加し、職員の交流や情報交換を行っている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人様の抱える不安やご要望を見逃さないよう、表情を捉えながらの傾聴に努めている。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族が不安に思われていることを解消できるよう、丁寧に対応している。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様やご家族の意向に沿った支援が行えるよう努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人様に寄り添いながら役割をもっていた だき、活き活きと生活していただけるよう努め ている。		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、 本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支 えていく関係を築いている	ご本人様の日常の様子や変化、ご要望をご 家族に報告することで、ご本人様に関する情 報を共有し共により良い支援を行っていきける 関係を築いている。		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場 所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族やご親戚、ご友人の面会を受け入 れ、ご本人様の居室で交流していただい ている。また外泊や外出の機会をもたれるよう 働きかけ、実際にお出かけされている。	家族や親戚、友人、教え子の来訪があり、電 話の取次ぎや年賀状、残暑見舞状の支援、 同窓会への出席、馴染みの商店での手芸材 料の買物、ドライブで昔住んでいた場所や従 姉妹に会いに行く他、家族の協力を得て、正 月の外泊や墓参り、馴染みの美容院の利用 や外食、ドライブに出かけるなど馴染みの人 や場との関係が途切れないように支援に努め ている。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せ ずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような 支援に努めている	利用者様の性格、周辺症状などを把握しつ つ常に見守り、声かけを行い利用者様同士 のより良い関係作りに心がけている。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関 係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族 の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院退所の際、病院に同行し介護添書を病 棟担当者に手渡しするなど支援している。ま た死亡退所後の相談にも応じてきた。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員全員でご利用者様の希望や意向の把握に努め、気づきを会議で話し合い、サービス計画書に反映させている。	センター方式のシートを活用し、利用者の好きな事やしたい事、楽しみ事など家族や本人から聞き取ったことや利用者との日々の関わりの中で職員が感じたことなどを記録して、職員会議で話し合い、思いや意向の把握に努めている。同窓会に出席したいという思いが実現するよう教え子の協力を得て実現する支援をしている。	
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントシートの情報を共有し、把握に努めている。		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	お一人おひとりの精神状態、身体状態の把握に努め、日々の支援につなげている。		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	面会時や昼食会、運営推進会議等の機会を捉えご家族との話し合いを行い計画書を作成している。	月1回のカンファレンスを行い、本人の意向、医師や看護師、家族等関係者の意見を参考に、計画作成担当者と利用者の担当職員を中心に、話し合い、介護計画を作成している。月1回モニタリングを実施し、6ヶ月毎に見直しをしている。要望や状態に変化があれば、その都度、見直しを行い、現状に即した介護計画を作成している。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎月のケアカンファレンスで情報の共有や意見交換を行い、必要に応じて見直しを行っている。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人様の希望に沿った支援を行っている。お誕生日の外出で萩美術館へ出かけて、割烹で昼食するなど、個別に対応しサービス提供を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアを受け入れ、安全で心豊かな生活を楽しめるよう支援している。		
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	法人が運営している診療所をかかりつけ医とすることを入所前からご本人、ご家族に説明し納得していただいている。他科受診に関しては入所前からのかかりつけ医や直近の診療所への受診を同行し支援している。	協力医療機関をかかりつけ医としている。協力医療機関の内科は2週間に1度、皮膚科と歯科は1ヶ月に1度の往診があり、看護師による月2回の健康チェックを実施している。協力医療機関の緊急時の対応がある他、他科受診を支援し、結果は家族と共有するなど、服薬の含め適切な医療が受けられるように支援している。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	月2回、看護師が訪問し健康チェックを実施している。個々の入居者様の健康状態を報告し、相談できる態勢である。		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は担当看護師や地域連携室との連絡を密に行い、症状の把握に努め、退院に向けての話し合いを行っている。		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りに関する同意書を作成し、契約時に説明、同意を得ている。医療機関との連携ですでに看取りも行っている。	重度化や看取りの方針については契約時に家族に説明し同意を得ている。重度化した場合には、家族や医師、看護師、職員等で何度も話し合いを行い、方針を共有して支援に取り組んでいる。	
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	訓練を定期会議に組み入れ、実施している。ヒヤリハットや事故報告書の情報を職員全員で共有し、事故防止に取り組んでいる。	ヒヤリハット・事故報告書に、発生状況や対応策等をその日の職員が話し合って記録し、全職員に伝達し共有している。月1回のグループホーム会議で報告書を基に再度検討し、一人ひとりの事故防止に取り組んでいる。消防署主催の救急救命講習は受講しているが、全職員が応急手当や初期対応の実践力を身につけているとは言えない。	・全職員が実践力を身につけるための応急手当や初期対応の定期的な訓練の実施

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練を実施し近隣住民への参加をよにかけしている。自治会役員、民生委員には参加をいただいている。	年2回、法人施設と合同の避難訓練を、自治会長や民生委員の参加を得て、利用者も参加して実施している。法人施設は災害時の地域の避難場所となっている。運営推進会議で地域の連絡網や訓練への参加を依頼しているが、地域との協力関係を築いているとは言えない。	・地域の協力体制の構築
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格を尊重し、プライバシーに配慮した言葉かけを行っている。適切でない事案にはその都度管理者が個別に指導している。	法人の月1回の全体会議で学び、利用者を人生の先輩として敬い、人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。入浴時やトイレ誘導時の言葉かけや対応にも配慮し、不適切な対応があれば管理者が指導をしている。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様がご自分の思いを表出できるよう、ご本人様のペースに合わせた見守りの中で支援している。		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様お一人おひとりの暮らしぶりに合わせた支援をするように努めている。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者様の好みを尊重した上で、時間・季節・目的に合った衣類の選択をしていただけるよう、見守りや言葉かけを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	昼食、夕食は通常法人からの配食で、利用者様と職員と一緒に食器選びや盛り付け、配膳を行っている。また昼食作りや外食では、利用者様の好みを尊重した献立を取り入れて楽しみな時間となるよう心がけている。	昼食と夕食は法人からの配食を利用し、朝食は利用者の希望を聞いてご飯食とパン食を事業所で提供している。利用者は職員と一緒に食器選びや盛り付け、配膳、下膳、食器洗いなどできることをしている。差し入れの野菜や事業所の畑で収穫した野菜(きゅうり、トマト、オクラ等)を使って一品加え、利用者と職員は会話を弾ませながら食事を楽しんでいる。月に2、3回、利用者の好みを取り入れてソーメンや瓦そば、手巻き寿司などの昼食を事業所でつくっている。おやつづくり(かき氷、おはぎ、柏餅、ぜんざいなど)、季節の行事食にノンアルコール飲料を加えたり、弁当を作って戸外での食事、職員や家族との外食など、食事が楽しみなものになるように支援している。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量や水分摂取量のチェックを行い、利用者様お一人おひとりの状態に応じた必要量が摂取できるよう支援している。		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、お一人おひとりの口腔状態に応じたケアを行っている。		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表の記録から検討し、紙パンツから布パンツへ移行に成功した利用者様もおられる。日中は全員がトイレでの排泄ができており、排泄の自立に向けた支援を心がけている。	一人ひとりの排泄状況を把握し、職員間で検討して、一人ひとりの排泄の自立に向けた支援を行っている。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェックを行い、必要な手段を講じている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴は毎日午後2時から5時の間実施している。たいていはお一人ずつ、たまには仲良しの2人組みといった、ご本人様の希望やペースに合わせた支援を行っている。	入浴は毎日14時から17時まで可能で、利用者の希望を聞きながら、ゆったりと入浴できるよう支援している。入浴したくない人には、声かけの工夫や時間を変えたり、職員の交代などで対応している。状態によっては、シャワー浴や清拭、足浴など、一人ひとりに応じた入浴支援をしている。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	寝具や寝巻きの選択も含めて、気持ちよく眠れるよう見守りや言葉かけ、支援を行っている。		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お一人おひとりの使用している薬の目的、用量、副作用について理解している。症状の変化については毎日のバイタルチェックとケース記録、日誌から確認し、主治医に報告している。		
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事やレクリエーションはご本人様のできる力に応じてやっていただいている。また個別の外出や季節の行事で気分転換ができるよう支援している。	新聞を読む、テレビ視聴、習字、折り紙、切り絵、貼り絵、手芸、絵を描く、歌を歌う、時代劇の視聴、カラオケ、ラジオ体操、ボランティア(朗読、歌)との交流、お茶会、園芸サークル、外出、買物、季節行事を楽しむ、花の水やり、畑仕事、ゴミ出し、ゴミ袋作り、掃除機をかける、洗濯物を干す、洗濯物をたたむ、食事の準備や配膳、後片付け、食器洗いなど活躍できる場面や楽しみごとを多く作り、張り合いや喜びのある日々が過ごせるように支援している。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご家族の協力を得て、墓参りやなじみの美容院の利用や、ご友人の協力で同窓会への出席など外出のための支援を行っている。日常的には近所のスーパーへ食品の買出しに出かけている。	周辺の散歩やスーパーへの買物、週1回の園芸サークル、季節の花見(桜、菖蒲)、初詣、ドライブ(常盤公園、紅葉狩り、菊川道の駅、東行庵、自宅付近など)、法人施設の温泉、担当職員との外食や買物、家族の協力を得て買物、外食、墓参り、美容院の利用など、一人ひとりの希望に応じて戸外に出かけられるように支援している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理のできるご利用者様にはご自分で支払いをしていただくなどの支援を行っている。		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人様の希望により、電話の取次ぎや年賀状・残暑見舞いなどの支援を行っている。		
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清潔で居心地の良い空間であることを常に心がけている。利用者様が作成された季節を感じさせる習字や壁面飾りをホールに掲示し、利用者様やご家族と一緒に眺め楽しむことができています。	共用空間は広く明るく、壁面には利用者3人が協力して作成したクレパス画や習字、切り絵、ぬり絵、手作りの大きなカレンダーなどを掲示している。テレビの前にはソファを配置し、食堂の椅子とあわせて、一人ひとりが好きなところに腰掛けてゆったりと楽しめるようになっている。台所では、食器を洗ったり、片付ける音が聞こえて家庭的な雰囲気を感じ、浴室、トイレ、洗面所は清潔で、温度、湿度、換気に配慮して、居心地よく過ごせるよう工夫できている。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食卓テーブルやソファの配置を工夫して利用者様が思い思いに過ごすことができるようにしている。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には馴染みのある物や愛用品を持ってきたり、居心地よく落ち着ける空間になるようご家族と話し合い、配慮している。	椅子、テーブル、タンス、洋服掛スタンド、サイドボード、テレビ、小ケース、仏壇、鏡台、裁縫セットなど使い慣れた物や好みの物を持ち込み、ぬいぐるみや造花、兄弟の書いた絵画、家族写真、賀寿の記念品、表彰状、自作品(ぬり絵、折り紙)等を飾って居心地よく過ごせるように工夫をしている。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者が安全に移動できるように模様替えの検討や実施を行っている。		

2. 目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホーム藤山

作成日： 平成 26年 1月 25日

【目標達成計画】					
優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	35	全職員が実践力を身につけるための応急手当や初期対応の定期的な訓練の実施ができていない。	全職員が応急手当や初期対応の実践力を身につけることができる。	定期会議に組み込んで実施する。	1年
2	36	地域との協力体制が弱い。	災害時に地域との協力体制を築く。	近隣住民へ避難訓練への参加を呼びかけ協力体制を整える。	1年
3	4	評価の意義の理解と全職員での取り組みが不十分である。	全職員が評価の意義の理解を深めることができる。	自己評価を全職員で行う。	1年
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加すること。